

C-2 東京フィールドワークの概要

東京方面への修学旅行を「総合的な学習の時間」の一環としてとらえ、そこでの活動が旅行で完結する体験学習にとどまることなく、その後の学びにも発展していくように位置付けた。未来の「ふるさと七尾」のあるべき姿を発信するための活動の一環として、東京フィールドワークを設定したのである。東京フィールドワークで学んだこと、考えたことをヒントに、未来の七尾について考え、自分が生まれ育ったふるさとへの愛着を深めるとともに、ふるさとを誇りに思う気持ちが育つことを期待したい。またこれまでに身につけてきた力を実践する場としても設定した。

東京フィールドワークは修学旅行3日間のうち2日間にわたって実践した。主な活動内容については以下の通りである。

①「七尾のバリアフリーについて」

宿泊先のホテルでバリアフリーのハード面・ソフト面についての取材を行う。またホテル近辺でバリアフリーに関する意識調査のアンケートを行う。また長寿社会文化協会を訪れ、高齢者などの疑似体験をし、ソフト面の必要性について意見交換を交わした。この後、この体験を生かし、七尾市役所との連携の中で七尾のバリアフリーの現状を把握し、七尾のバリアフリーについての意見をまとめた。

②「住みやすさとは？」

池袋・谷中商店街・浅草商店街などで「住みやすい街のイメージ」についてのアンケート調査を行った。この後、同様のアンケート調査を七尾でも行い、内容を比較検討しながら「住みやすい街」のイメージを作り上げた。

③「検証！七尾は本当に住みやすい街か？」

まちづくりに特色のみられる豊島区役所・港区役所・千代田区役所を訪問し、それぞれの区のまちづくりコーディネーターの方々と意見交換を行った。説明していただいたまちづくりに必要な視点をもとに、七尾のまちづくりと比較しながら、自分たちの視点で七尾がより住みやすい街になるためのイメージを作り上げた。

④「防犯防災の視点からの街づくりについて」

池袋警察署・警察博物館を訪問し、防犯についての取組の取材を行った。また東京消防庁本所防災館を訪問し、災害時の対処法などを学んだ。この後、七尾警察署にも同様の取材を行い、数値で比較しながら防犯・防災の視点に立った提言を行った。

⑤「七尾の魅力をPR！」

能登ふるさと館を訪問し、館の協力を得て、二日間七尾のPR活動を行った。手作りのパンフレットを作成し、来館者に手渡ししながら七尾のよさを伝えた。この後、外から見て分かった七尾のよさを広く発信した。

⑥「商店街の魅力とは？」

浅草・巢鴨・早稲田商店街を訪問し、魅力ある商店街の姿を探るために、商店街の方々や訪問客にアンケート調査を実施した。併せて生徒手作りの七尾のPRパンフレットを配布しながら、七尾の魅力を発信した。この後、七尾の商店街との連携の中で魅力ある商店街の姿についてともに考えていった。

⑦「七尾のウォーターフロントの開発について」

国土交通省京浜港湾事務所・東京みなと館などを訪問し、ウォーターフロントの開発について学んだ。その後、七尾のウォーターフロントのよさを生かした開発についての提言を行った。

⑧「100年後に残したい七尾の景観」

都内で景観を生かした街作りを行っている柴又・原宿・表参道などを訪問し、取材を行った。その後、七尾市民を対象に100年後に残したい七尾の風景と題したアンケート取材を行い、結果をまとめた。

東京フィールドワークの主な様子



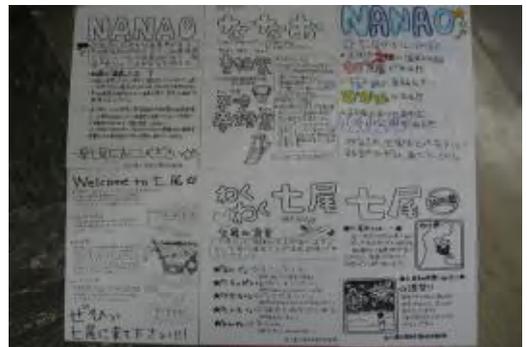
能登ふるさと館にて七尾のPR活動



早稲田商店街にて七尾のPR活動



早稲田商店街の魅力を探る～アンケート調査～



七尾のPRで配布した手作りのパンフレット



浅草商店街にて「住みやすさ」のアンケート調査



谷中商店街にて「住みやすさ」のアンケート調査



豊島区役所で街づくりコーディネーターの方と意見交換



港区役所にて街づくりの意見交換

東京フィールドワーク後の生徒の学びのこぼ

女子生徒 テーマ「商店街の魅力とは ～七尾の商店街の活性化を目指して～」

すごく心配だった。しっかりできているか、みんなの足を引っ張っていないか、アンケートをしている時、相手にすごく失礼なことを言っていないか・・・すべてが緊張の連続で、すごい責任感が私の頭上にあった。

一日目、アンケート調査をした巣鴨商店街。班のみんなは、どんどんアンケートを進めていて、あせりが出てきた。でもその緊張感がすごくわたしを楽にしてくれた。勇気をくれた。人と会話できることがこんなに嬉しいものかと自分を疑うほどに楽しく感じた。礼儀というものをすごく意識でき、学ぶことができたと思う。

二日目、早稲田商店街。ボランティアの学生さんと商店街をまわった。すごく分かりやすく説明してくださって、とても楽しかった。たくさん知識が頭の中に入って行く。不思議な感じがした。アンケートをしている時、私は市役所から借りたはっぴを着て、自分で作ったパンフレットを持ち、アンケートの呼びかけをした。最後に担当の藤村さんから「自分たちのことだけではなく、相手のことをしっかり考えて、思いながら行動しないと自分の気持ちは伝わらない」と指摘された。わたしは、驚くぐらい素直に聞けて、礼儀というものを改めて考え直すことができ、一日目とは違う視点で礼儀を学んだ感じがした。

知らない人とたくさん接した東京フィールドワーク。なにか自分自身をすべて見直す・考え直すことができたなあと思う。今回のフィールドワークで、学んだことは数え切れないけど、礼儀がわたしを二回りも大きくさせてくれたと思う。

女子生徒 テーマ「バリアのない住みやすい七尾を目指して」

今回のフィールドワークで、バリアフリーは設備だけじゃダメなんだなって思った。どんなに設備がよくても周りの人の思いやりや気配りがないと障害者の方々や高齢者の方々にとっての心のバリアはなくなり、つらいんだなあと思った。そんな中でやった街頭アンケートでは、答えてくれる人はみんな障害者の方々に対して、心のバリアをなくそうと努力しているのが伝わってきて、たくさん教えられた気持ちでした。そんな人が七尾でもたくさんいてくれるといいなと思います。二日目の高齢者疑似体験では、私達が当たり前のようにしている日常生活であっても、高齢者の方々にとっては、たくさんバリアで囲まれていることに気づきました。東京フィールドワークは、わたしにとってとても学ぶことがたくさんありました。特に心のソフト面の大切さがよく分かりました。七尾でソフト面が充実するようなアイデアを見つけていきたいです。

男子生徒 テーマ「100年後に残したい七尾の風景」

ぼくたちの班は「100年後に残したい七尾の風景」というテーマで、柴又や表参道などを訪問して景観の工夫を調べた。柴又は観光客がたくさん訪れるのに、昔のような雰囲気漂っている街だった。それは、いろいろな所に昔の町並みを残そうと工夫しているからだ。例えば都会的なコンクリートの建物があまりなく、商店街もかわらの店が多い。駅も柴又の景観にあったかわらを使っていた。また駅員さんやお店の人が気軽に話しかけてくれて、すごくいい印象だった。「どこから来たの?」「石川の七尾」「七尾はすごくいいところだね～」と言われて嬉しかった。自分のふるさどがそんなふうに使われていたと分かってよかった。ぼくも改めて石川県はいいところだな～と思った。帝釈天や寅さんの街で有名なのに、伝統を大切に残したこの街の景観を、是非とも七尾の景観を残していくための参考にしたいと思った。

表参道は、とても交通量が多い道だった。でもただ開発をするのではなくて、道路脇に整然と木が植えてあって、歩行者や運転する人が気持ちよく景観を見ながら道を通ることができ、自然の環境にも配慮した街作りをしているなど思った。しかし、その一方で、幅の広い歩道にはばい捨てされたゴミがけっこう落ちていて残念だった。ポイ捨てしないようにする心を広めることも大切だと思った。これからの総合の時間で、七尾の美しい景観をどうすれば残していけるかを、東京の景観を参考にして考えていきたい。

男子生徒 テーマ「検証!!七尾は本当に住みやすい街か?」

ぼくが東京で検証したかったのは、本当に七尾は住みやすい街か?ということです。市役所の人に教えてもらった七尾が全国でも30位台だということが信じられなかったからです。ぼくは東京の方が利便性も高いし、交通も便利だし、店も多いしで、絶対に東京の方が住みやすいと思っていました。

初日に行った豊島区役所では街作りコーディネーターの井上さんから、街作りの視点などいろいろなことを教えてもらいました。また、千代田区役所・港区役所でもそれぞれ工夫していることを教えてもらいました。中にはぼくたちの訪問のために七尾のことを調べてくれてあった方もいて、かなりの感激でした。

訪問を通して気づいたのは、街作りのポイントはどこでも共通していることと、その区独自のことがあるということです。七尾とも共通していることもありました。また、それぞれの区によさや問題点があって、説明してくれた方々は、本気になって自分の区をよくしようとしていることでした。たくさんの方の話の話を聞いているうちに、ぼくは、東京で逆に七尾のよさを教えてもらったような気持ちになりました。住みやすさのための見方が広がった気がします。

七尾には七尾のよさがあるので、七尾での住みやすさというものを、これから考えてみんなに発信できるように意見をまとめていきたいです。

女子生徒 テーマ「バリアのない住みやすい七尾をめざして」

東京フィールドワークでわたしは七尾がもっといい町になるためのヒントをたくさんもらいました。ホテルメトロポリタンでは、ソフト面・ハード面両方のバリアフリーを知ることができ、今の七尾に足りないところや、これから調べないといけないことが分かりました。また、七尾のいいところも見つけることができました。ハード面はお金がかかるから、ソフト面をもっとしっかりしていきたいという話を聞いて、七尾でももっとソフト面が充実すればよいと思いました。それが今のわたしたちにもできることだと思います。七尾の人がもっとバリアフリーに対して関心を持ってくれるように、これからわたしたちが何ができるのかをしっかりと考えたいと思いました。東京フィールドワークでは、たくさんの方の発見がありました。そしてたくさんの方の宿題ももらいました。これからじっくりと考えていきたいです。すごくいい経験でした。

女子生徒 テーマ「商店街の魅力とは ～七尾の商店街の活性化を目指して～」

わたしたちの班は早稲田商店街を訪問しました。商店街の方々はわたしたちのためにたくさんの準備をしてくださいました。わたしは準備不足だったなあと思いました。私が楽しみにしていたリサイクルボックスが石川県では七尾にしかないと聞いて、わたしはそんなことも全く知りませんでした。七尾の商店街が工夫していることを、逆に早稲田の方々に教えてもらいました。七尾のことを質問されても、答えられないことがあって、逆に早稲田の方々が、七尾に詳しい気がして、もっともっとふるさとのことをよく知るべきだと思いました。

今回のフィールドワークで、たくさんのことを教えていただいたので、これからわたしたちの意見をまとめて、七尾の商店街の方々に発信していきたいです。ちなみに七尾に早稲田と同じリサイクルボックスがあることを、わたしの家族もだれも知りませんでした。もっと広めていけば、工夫次第でよくなると思います。商店街のよさがもっと生まれていくように、わたしは今回の経験を生かしていきたいです。

